

令和7年度第1回小鹿野町総合教育会議会議録

開催日時 令和7年7月28日(月) 午前11時00分
開催場所 小鹿野町役場2階 防災対策会議室
開会時刻 午前11時00分
閉会時刻 午後 0時25分

出欠席状況

町長	森 真太郎	出席
教育長	武 藤 彰 男	出席
教育委員	中 山 忍	出席
	石 田 加津美	出席
	守 屋 敏 夫	出席
	八 宮 悟	出席

その他会議に出席した者

学校教育課長	加 藤 恭 浩
生涯学習課長	高 田 行 敏
学校教育課指導主事	渡 部 顕
学校教育課主査	黒 澤 成 幸
総務課長	島 崎 健 司
総務課主査	権 上 和 城

傍聴者 なし

会議録署名 武 藤 彰 男

日程

日程第1 会議録署名委員の指名

日程第2 議 事

- (1) 小鹿野町立小中学校における学力向上の取組について
- (2) 地域クラブ活動への展開について
- (3) その他

会議の進行状況及び顛末

開会 午前11時00分

町 長 あいさつ後、令和7年度第1回小鹿野町総合教育会議の開会を宣言する。

以下、日程に従い議事を進めてまいりたいと思います。

〔1〕

まず、日程第1、会議録署名委員の指名を行います。
会議録署名委員の指名については、武藤教育長を指名いたします。よろしくお願いします。

〔「はい」の声あり〕

町 長

次に日程第2、議事に入ります。

(1) 小鹿野町立小中学校における学力向上の取組についてを議題といたします。

学校教育課長より説明をお願いいたします。

学校教育課長

まず、議題の(1) 小鹿野町立小中学校における学力向上の取組について、その後の(2) 地域クラブ活動への展開についてということですが、本来であれば担当であります柴崎指導主事の方から説明をさせていただければよかったのですが、大変申し訳ありません。あいにく本日所用がございまして欠席ということでございます。

資料説明は私の方で説明させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。またその後にご協議をいただくわけですが、ご質問等でお答えできない部分もあるかもしれません。ご了承いただければと思います。よろしくお願い致します。

では着座にて失礼いたします。資料をご覧くださいと思います。

小鹿野町学力向上の取り組みについてということで小鹿野町学力向上プロジェクトについてです。始めに資料1でございます。学力向上プロジェクトについてご説明をいたします。小鹿野町の目指す子供像にある、確かな人間力の基盤となる確かな学力の育成は、学校教育における最重要課題でございます。そこで学力向上に向けた様々な取り組みを、小鹿野町学力向上プロジェクトと位置づけまして、行政と学校と家庭で方向性を共有しながら、総合的に推進し、各学校の工夫や独自性を積極的に支援しております。

具体的な取り組みについてご説明させていただきます。まず真ん中の小鹿野ベースによる授業からです。小鹿野ベースとは小中学校共通の授業参画でございます。

今日重要視されております主体的対話的で深い学び、ということで協働これ人の繋がりですが、協働を通した主体性の育成と学びの深化、深い深みの方の深化ですね、が求められております。

そこでわかるから楽しい授業から、楽しいからわかる授業へのロジック転換をし、協働を通した主体性の育成と学びの深化を目指すために授業スタンダードを作成いたしました。

この取り組みによりまして講師、教科の枠を超えた授業構成の共通化ができ、授業の質の均一化と底上げを目指しております。

今年度は習熟、定着の時間を十分確保すること、それから指導と評価の一体化を改めて見直すこと、そして児童生徒にどんな振り返りを書いて欲しいか、イメージを持って授業研究をすること、これらを具体的な視点として定めまして学校訪問の際に授業者への指導助言等を行っているところでございます。

左の自学ノートについてです。おがの自学ノートは町独自に作成した自学のための学習ノートでございます。小学校卒業段階で自らの必要性や興味関心に基づきまして、何を目的に学習すべきかがわかり主体的計画的に家庭学習に取り組む態度や習慣を身につけさせることを目指しまして作成をしております。

学校で活用の仕方を工夫し、児童にはできるだけ自由に利用させるとともに、保護者に趣旨を周知し、学校と家庭が連携した長期的な取り組みとして推進をしております。

活用例としましては、昇降口に自学ノート修了時に校長先生からもらえるシールを貼る掲示板を設置したり、学級全員が一冊終わるごとにお祝いのパーティを行う、そういった意欲喚起を行ったり、家庭学習がんばり週間を設定し、全校で自学に集中して取り組み期間を定めたり、おうちの方から問題を出してもらったり興味のあることをまとめさせたりと様々にございます。

昨年度の1人当たりの平均完了冊数は4冊でございました。今年度は1人5冊以上を目指して取り組んでいるところです。また今年度はおがの自学ノートの増刷を行いまして、表紙絵の募集を行いました。52点の募集をいただきまして、掲載作品とともに小鹿野文化センターや両神ふるさと総合会館で表紙絵の絵画展を行っているところでございます。

続いて右のファミリー5ヶ条についてです。ファミリー5ヶ条は家庭の教育力向上を目標とした小中学校共通の取り組み目標でございます。子供たちの学力向上のベースとなります生活習慣、学習習慣の定着のため、秩父地区のPTA連合会小鹿野支部と連携して取り組んでおるところでございます。

児童生徒だけでなく、保護者等の意識啓発に取り組み、学校家庭地域が一体となった事業として推進しております。PTAが主体となって学校ごとに身に付けさせたい生活習慣を5項目定めまして、ファミリー5ヶ条として家庭に配布しております。

ここの1、2年は小学校統合に合わせまして各校の5ヶ条の見直しやすり合わせが行われました。これに合わせ小中学校間でも統一した内容表記の方が良いのではないかとすることで

今年度検討していただいているというふうに聞いております。

各項目の達成度についても年度末に修正を行い、まとめた結果を秩父PTA連合会小鹿野支部だよりとして発行し、課題や今後の目標を家庭と共有をしていきます。

今年度の重点についてですが、資料1の中ほどに、小鹿野町の事業やシーンが示されております。それぞれの所属課につきましてはちょっと割愛させていただきますが、おがのベースの授業、おがの自学ノート、ファミリー5ヶ条、これらの取り組みによりまして、小中学校の工夫独自性を支援ながら、子供たちの主体的な学びを身につけさせ、確かな学力を育成することを目指しております。

最後になりますが学力向上プロジェクトでは各年度ごとに各学校の重点目標を設定します。

今年度の目標、重点1点目は読み書き計算、いわゆる基礎学力の徹底でございます。特に算数数学における基礎基本の習得を取り組んでいきます。

2点目が個別最適な学びの充実です。特にタブレット端末を児童生徒が授業で活用すること通じて、児童一人一人に合った学習方法の確立を目指しております。

添付資料についてです。資料2をご覧くださいと思います。こちらはおがのベースの授業構成を示す概要図となっております。

資料3につきましては親のおがの自学ノートに係る資料であります。1枚目が各校に配布している自学ノートの説明資料です。

資料4は昨年度末に発行されました。秩父P連小鹿野支部だよりとなっております。各資料につきましては、後ほど内容の方ご覧くださいということで、詳細は割愛させていただきます。以上簡単ですが、学力向上に係ります取り組みの説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

町 長

はい、ご苦労様でした。ただいま学校教育課長から説明がございました。これらの関係について、委員の皆さんからご質問ご意見等ございましたらお願いをいたします。

私が聞いたら、まずいんですけど学力検査って昔あったじゃないですか。ああいうのはまだやってますよね。

教育長

あります。全国と埼玉県でやっています。

町 長

その結果ってのは、客観的な結果出てると思うんですけど。それはどうなんでしょう。

学校教育課長

残念ながら、県あるいは国と比べましてもなかなか平均には

及ばない結果となっております。ですので、先ほど説明の中にもあります通り基礎力の徹底というところですね。なかなかいきなり県平均ですとか、国平均に肩を並べるとするのは難しいところもございますので、今年より来年、来年よりさらに翌年というような、少しでも伸びていくことを目指して取り組んでいくというようなことで行っているところでございます。

町 長 どのぐらい差はあるんですか。具体的に。科目によって違うのかな。

学校教育課長 やっぱ数学的なものが非常に弱いですね。

八宮委員 一点いいですか。そろそろ中学3年生が進路を決める時期です。皆野高校が皆野町からなくなっちゃって、小鹿野高校はどうなのかなってちょっと心配してるんですけど。そういうのって何か町としては考えとかあるのですかね。

町 長 小鹿野高校は残ってもらいたいなという思いはございます。ちょっと話はすると、関係ある部分があるのですが、来年度から山村留学の、今まで試行をやってたじゃないですか。それについては、町の方で今、国民宿舎の関係でいろいろ難しい問題あるので宿舎の提供は難しいということを相談しましたら、県の教育局の方では山村留学試行は取りやめをすると新しく生徒募集はしませんということで、そういうふうな決定がなされました。

今、ご案内かと思うんですけど自分で民間アパートを借り上げてですね、1人で住むということもできるようになりましたので、もし本当に小鹿野高校に來たい人がいれば、そういう制度を使って来てもらうとかですね。逆にこっちの生徒が浦高とか向こうの高校に行く場合なんかもそういうこともできますので、そういった制度でやるので、今回、県の教育局としては小鹿野がそういうことは協力できないのであれば、試行はやめますというふうなことになると思います。あと残ってる子については引き続き1年、2年残ってるので、その子が卒業するまでは町の方でもそれを支援しますってことなんですけども新しい募集はしないということになりました。そういう面で少しマイナスの影響が出るのかなというような気がするんですけどね。

学校教育課長 小鹿野高校だけではないんですけども、秩父郡市の一市四町の児童で、以前から定住自立圏構想の中で、高校の魅力化ということに取り組んでおります。ですので各市町で予算をそれぞれ負担する中で事業を行っているんですが、例えばこれまでですと中学生、1年生とか2年生とかですけども、バスを借り

てですね。各高校の訪問を行って、授業風景を見たりとか説明を受けたりとかですね。そういったことも行っております。やはり私立がこれから無償になって来たりとかの中で、より公立高校の立場というのは厳しくなっている。先般会議があったのですが、そういった意見も出てきておりますので、何か斬新的な何かアイディアですとかそういったものを考えながらですね、高校の魅力というのをさらにアピールしていきたいというようなことを各高校の教頭先生ですとか、市町の担当の方も話をしていたところです。

八宮委員 ちなみに小鹿野中学校は私立はどのくらいのパーセンテージが。秩父一中あたりだともう6割ぐらいが私立に行っちゃうような話を聞いたんですけど

学校教育課長 すみません。ちょっと今資料がありません。

八宮委員 わかりました。私立の無償化が公立を潰しちゃわないかなって心配なんですよ。

町 長 それは非常に危機感を感じますよね。公立学校はね。

八宮委員 こういうところから声が上に上がらないんですかね。私立を無償化した段階で公立は未来がないのかなっていうのをすごい感じてましたよ。大丈夫かなって。

それで今、小鹿野中学校の成績が平均以下だという子たちがまた、小鹿野高校でより良い教育を受けて、そういう標準のところまで上げられるような教育もできたりすればいいのかなと思うのですが、私立の方に行っちゃった場合にまた郷土愛とかもなく、高校の段階から小鹿野を離れてっていうと、またこの定住性も低くなってったり、将来的な小鹿野町の人口減にも繋がってっちゃって、より絶滅危惧種の子供が減っちゃうかなって。

町 長 中学校の実績分かるんじゃないの。

学校教育課長 分かります。すみません。ちょっと資料が手元になくて。数字は出ております。

町 長 多分10人くらいいるんだよね。

学校教育課長 ちょっとよろしいですか。まさにそういった意見が出ておまして、例えば小鹿野では、小学生のうちから、高校の方から出向いて、何かこう出前授業みたいなことをやったりして小鹿

野高校ってこんなことやってるんだってというようなイメージを持ってもらう。地元の学校の良さを知ってもらうっていうのも大事だよなって話も出ておりました。

先ほどの無償化もそうですし、バスの送り迎えなんかも遠距離でも何でもやってますので、そういった魅力というのをですね、アピールしていかなくちゃいけないと思うんですけども。

学校教育課長って小鹿野高校の運営協議委員なのですよ。年3、4回会議に行ってるんですけども、中に入りますと、良く分かります。高校の授業の様子とかも見させていただく機会があるんですけども、非常に面白いことやっているのですよ。少人数がゆえに、すごい細かい小回りの利く授業もやってます。

例えばですけど、小鹿野中学校の生徒が1学年80数名おりますけど、その中で例えば生徒会役員だったりとかリーダーシップ取れる子がいるわけで、それはある程度一部ですよ。中堅どころの子が、例えば小鹿野高校に行く。当時中学の時には目立たなかった子が小鹿野高校ですごくリーダーシップを発揮していく。率先的に意見を言うようになったということです。校長なんかもびっくりしてたことがありますので、そういうメリットが非常にあると思うんですよ。

だからその辺がちょっとまだアピール足りてないな、届いてないなっていう非常にもどかしさがありますので、まだまだそういう伝えられる部分というのが、伸びしろというのはあるんじゃないかなというふうに思います。

中山委員

先ほど、高校見学をしていただけたというお話を聞きましたけれど、今の高一の子たちは高校見学行こうとして、ちょっと中止になってしまったなんていう経験があるのでとてもそのとき残念だなと思ったので中止じゃなくて延期という感じで、もう1日ぐらい、予備日を考えていただきながら、日程調整していただけたとありがたいなってそのとき思いました。

町 長

なんで中止になったの。

学校教育課長

あの時、爆破予告が入ったのです。おっしゃる通りで、スライドとか予備日とか他の日って、町もそう思うんですけど、本当に日程が組めないのですよ。年間の中でスケジュールを組むだけで本当にやっとなんです。ですのうでようやっとなスケジュール組んでバス会社と契約してというところなので。多分今回みたいに突然中止でさらについていうのは、かなり厳しいと思います。

町 長

あとは私学の関係ね。これも本当、国で決められちゃったんでもうなかなかこれね。市町村サイドで要望とか出す状況

ないんですよ。

八宮委員 駄目なのですかね。

町 長 もう駄目っていうか声を上げていくしかないんでしょうけども確か本当、私学が無償になっちゃうとね、公立の存続意義っていうか、それはあるんでしょうけども当然非常に厳しくなるんかなっていう。特に小鹿野高校はより厳しくなるんかなみたいな気はしてますね。

八宮委員 心配です。大学の方もね、東京大学が学費を上げるなんて言ったらもうね私学との差がなくなってきた、国立の大学も大丈夫かなっていうような、外国人もいっぱい入ってきてますし。

町 長 他いかがでしょうか。

教育長 一点よろしいでしょうか。学力の話です。学力は確かに全部平均でやると県の平均を下って。何が下なのかって、平均なんですよね。だから単純に平均ですので、どこに視点を当ててやるのか。平均値で全部比べるっていうことには非常に無理があります。どうしてるのかっていうと結果について、非常に分析してます。では今後何が弱いのか。算数数学で何に弱いのかっていうのを分析して、これは学校教育だけじゃなくて家庭教育も含めて、やっていかないとどうにもならないと。

残念なのは、小鹿野の子供たちの家庭教育、家庭での勉強時間は非常に少ないんです。比較すると非常に少ない。ではそれをどうするのかっていうふうな問題。家庭に問題があるのかっていうとそれはおかしいじゃないかということで、担当の方と相談して、小学校1校になりました。中学校1校になりました。連携を強めるということで、今ですね、視点を絞ってということで算数数学に視点を絞って、小中連携で、小学校で算数ここまでこうにやりましょうよ、中学校ここからこうにやりましょうよっていう詳しい具体的な計画を立案して、それで取り組んでいこうじゃないかっていうところまで進んでおります。

担当指導主事の方でその辺は小学校中学校を呼び掛けてやっていくと。まず本当に四則計算はどうなのかと、足し算、引き算、かけ算、割り算はどうなのかと、小学校どうなのかと、どこまでやってもらわないと中学校こうですよ。そういうふうなことを連携して小中連携を一つの大きな目玉として算数数学でやっていこうというところまで進んでおりますので、そうしたならば、それを今年度からやって来年度どういうふうになったか、1年で出ませんので、例えば2年3年後にどうなったかっていうのを、ちゃんとデータを取って、その取り組みを検

証していくという段階になっておりますので、その辺はきちんとやっていこうというふうなことができております。

先ほど町長さんがおっしゃったように受験勉強もまた、どういう視点で学力を評価するかっていうと、自ら学んで、自分の目標に向かって頑張るってそういう力は確実に伸びてるんですよ。ですからそれが学力に反映するようになっていうことで、今具体的にやんなきゃいけないと子供たちに頑張れ頑張れと言ってもなかなかできませんので、先ほど言った算数数学で具体的なところで取り組みを始めておりますので、ぜひご期待いただいてですね、教育委員会も学校と連携しながらやっていければいいなというふうに考えておりますので、情報提供として、そんなふうなことを行っていきたいと思います。

学校教育課長 先ほど八宮委員さんの方からご質問ありました私立の進学状況なんです、昨年度の進学、生徒数 86 名に対しまして、私立への進学者が 12 名ということで約 14 % に相当します。

町 長 これは今年度、来年度増えますかね。

教育長 増えますね。

八宮委員 それこそさっきの会議で中山委員さんが言ったゲームを授業に取り入れるなんて、うちもさっきの数学の話じゃないですけど、4 年生ぐらいになったら素数を作るようなゲームをやらせると兄弟同士で何か算数の力伸びてるのかななんていうところがあるのでそのゲームを授業に取り組み入れるなんていうのはすごくいいのかなってお話を聞いてて思いました。

町 長 他はいかがでしょうか？次、よろしいですか。

それでは次の議題に移りたいと思います。(2) の地域クラブ活動への展開についてを議題といたします。学校教育課長の方からご説明お願いいたします。

学校教育課長 それでは続きまして(2) 地域クラブ活動の展開についてご説明させていただきます。着座にて失礼します。

それでは資料の方、ご覧いただきながらお聞きいただければと思います。前回の地域クラブ活動に関します説明が 2 年前ということで、間が空いてしまい申し訳ありませんでした。ご説明させていただきます。

小鹿野町の地域クラブ活動の推進に係る進捗状況についてです。

資料 1 をご覧いただきたいと思います。こちらが令和 7 年 5 月 21 日に開催されました第 3 回小鹿野地域クラブ活動推進

協議会で決定となった令和7年の事業計画でございます。

1の令和7年度の目標をご覧ください。今年度は三つの柱によりまして地域クラブ活動の展開に向けた環境整備を進めていくことになりました。

順に内容をご説明いたします。(1)としまして小鹿野町地域クラブ活動推進計画の策定です。こちらは休日の地域クラブ活動への段階的な地域展開、地域連携を進めるための取り組みを定める計画となっております。令和7年2月に実施したアンケート結果や、国や県が示すガイドラインの内容を基に今年度中に策定し、令和8年度以降の活動環境定着期間に備えてまいります。

(2)として受け入れ可能なスポーツ団体、文化芸術団体の発掘です。地域クラブ活動の展開を推進するに当たりまして、協力いただけるスポーツ団体、文化芸術団体を発掘いたします。既存の部活動にとらわれず、小鹿野町の地域資源、地域人材を活用した地域クラブ活動の協力団体を各方面に呼びかけながら探しているところでございます。

(3)といたしまして委託団体によりますトライアル事業の実施でございます。協力いただける団体の中で現在いくつかの団体が、土日の活動での中学生の受け入れを検討していただいております。それぞれの団体と連携しまして、地域クラブ活動、トライアル事業として先行実施する予定でございます。トライアル事業の期間につきましては、中学校の活動より地域の活動を優先して良いということで予定しております。実際に地域の活動に参加した生徒や保護者の意見を踏まえ、結果を推進協議会において検証し、令和8年度以降の地域展開に繋げていきたいと考えております。

2の実施スケジュールをご覧ください。第3回の推進協議会を経て現在トライアル事業の検討及び打ち合わせを行っております。現時点でトライアル事業に協力していただける方として、まずは長若集学校、これはリングローさんの強矢校長によりますプログラミング教室。二つ目がクライミングパーク神怡館によりますボルダリングです。三点目が村岡友憲氏によります体操教室ということで三つの団体が挙がっております。9月の推進協議会に確認した後に、10月から1月の間の1ヶ月程度をトライアル実施期間として行う予定でございます。令和8年2月の推進協議会において推進計画を完成させるとともに、トライアル事業の検証を行いまして、令和8年度の事業構想を行います。

なお令和8年度は地域クラブ活動の活動環境定着期間の開始でございまして、実施可能な活動から段階的に地域展開を進め、令和10年度末までに可能な限り土日の活動の地域展開を目指すものとなっております。

補足資料の説明です。それぞれ内容を説明させていただきます。(1)の秩父地区中学生地域クラブ活動推進協議会の要綱でございます。資料2、資料3が8月に立ち上がる秩父地区中学生地域クラブ活動推進協議会の関係資料となっております。資料2をご覧いただきたいと思います。第3条の組織規定によりまして、小鹿野町からは町の推進協議会の東敬治会長、それからスポーツ協会荒船進会長、小鹿野文化団体連合会の加藤和夫会長、小鹿野中学校新井一也校長、小鹿野中学校PTAの白坂和代副会長の5人が参加する予定となっております。

資料3は事務局であります北部教育事務所が作成した説明資料となっております。後ほどご覧いただければと思います。地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議、最終のとりまとめについてです。

資料4をご覧ください。去る5月16日にスポーツ庁から新たな国の方針が示されました。こちらがその概要版でございます。詳細につきましては後ほどご確認いただければと思いますがこの場では赤枠の2ヶ所をご覧いただきたいと思います。

1点目が地域移行の名称変更です。既存の部活動にとらわれない新しい価値を創出するということ観点から、地域移行から地域展開という表現にされることになりました。

2点目の下段の枠をご覧ください新たなスケジュールの方向性が示されております概要といたしましては、一点目、令和1・3年度末に、原則全ての学校で土日の部活動の地域展開を目指すこと、全ての部活動が地域へ展開することが示されるのは今回が初めてのことでございます。

2点目としまして、平日の部活動についても更なる改革を進めること。埼玉県では地域展開後も平日の部活動を継続することとこれまではなっておりました。以上のように、新たに国から示された方針がございますのでこれを受けて今後埼玉県からも新たな方針が示される可能性がございます。

最後に資料5としての小鹿野町のリーフレットを再掲させていただきました。参考資料としていただければと思います。

それから最後に大変申し訳ございません。資料1表紙が一字訂正をお願いしたいと思います。最後のところですけども、令和7年となっております。これ令和8年の誤りでございますので訂正していただければと思います。

以上、地域クラブ活動に係わります進捗状況をご報告とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

町 長

はい、ありがとうございました。ただいま説明をいただきました。これにつきましてご意見ご質問等ございましたらお願いいたします。

八宮委員 一点確認よろしいですか。このパソコンとボルダリングと体操が今のところ三つ地域移行をする形でよろしいですか。

学校教育課長 地域移行するのではなくてですね、一応モデル事業として実施するということで、先行して地域移行をやるということではないのです。試しにやっていきたいと。今年から一定期間の1ヶ月間だけ募集してそれをやってみたいと。

守屋委員 呼びかけはどのように行ったのですか。例えば自分、小鹿野町のスポーツ協会に関わってるのですが、そこでの依頼はなかったです。理事会等にも。だから広くそういうところに呼びかけたのかどうかも含めてちょっと、この三つが出てきた経緯ってどうか、ちょっと教えていただければ。

学校教育課長 はい。まずそこまで実際行っていない段階です。実際のところ進め方というところで、まだ固まっていないといえますか。小鹿野だけではなくて、これまた秩父地域もありますし、圏域全体の話ではありますけどいろいろ試行錯誤している段階でありますので、まだそれぞれの末尾の段階まで声を掛けるところではなくて、本当に今申し上げた代表者の方ですとかだけで、まだ会議を持っている段階ですので、まだこれからの話になります。

守屋委員 ちょっと前も私言ったように、多分非常に難しい問題になるんですね。町もすごい負担になるのだと思うのですが。それでスポーツ協会等が恐らく今既存の町の団体としては多分頼らなくてはならない団体なんじゃないかなと思うんですが、やっぱり広く、それこそ伝えていかないと、後でちょっと難しい問題にならなきゃ良いなとちょっと思うところなんです。

例えばそういう試行期間でやるとなれば、今、現に中学生が参加してる卓球とか、それから柔道とか、それから剣道とか、そういうところと、何かタイアップしながらちょっとやっていかないと、そっちが今度逆に話がいつてなかったり、へそを曲げてしまったりすると、多分移行にうまく持てけない。そういうことも繋がるかなってちょっと思うんですけど。

しかも今聞いてると、小鹿野町で力を入れているかどうか知らないけど、小鹿野町に移住してきたような人達かなって思うんですけど。なんと言うのですかね。新しいものが本当にうまくそのまま小鹿野町に根付いていくかとなるとそれも難しいし。興味で、小鹿野中の子なんか、参加してもらおうっていうぐらいだったらいいのかなっていうふうには思うんですけど、なんか非常にちょっと難しくならなければいいなってちょっと思います。具体的にはどうしたらいいかって言い切れないんです

けれども。ただ、提案は同じにしといた方がよろしいのかなって思います。試行で、こういうのをやるっていうのを。ちょっと感じるころなのですけど。

町 長

その辺はどうなのですか。調整っていうか。

学校教育課長

今、守屋委員さんが言ったことについては、小鹿野町の地域クラブ活動推進協議会が、立ち上がっておりますので、そこに委員さんとしてスポーツ少年団からお二人、それからスポーツ協会から、スポーツ推進委員から、小鹿野文化団体連合会からそういうところから組織から代表が出てきて、そこで話し合っ、ではこういう方向でいきましょう、ではこの団体さん、声かけ広めてくださいっていうような、そういう流れになっておりますので、広くやってみようということについては、この推進協議会について、やっていくという組織になってると思います。

ただ、先ほど出たボルダリングとプログラミングと体操については、これさっき言ったように、全然もう移行というよりも、ただやってみて子供たちがどういうふうに参加するかどの程度参加するかだとか、そういうことは今度は小鹿野町の特徴を生かした地域展開になりますが、だから今度、中学校の部活動のサッカーやります、剣道やりますとイコールじゃないので、もう地域で子供たちを活動させるっていうことになりますので、部活動がそのまま移行するという、だから移行っていうのは消したのですよ。地域展開になったんです。地域移行から地域展開になったのは、そういう意味で、その自治体でできる活動をやってみようってことになって新しい価値っていうのは、そういうふうになったんですよ。

その中で、では小鹿野町として、ああいうせっきく長若集学校にプログラミングできるところがあるんだから、そこを活用できないかなと、ボルダリングあるのだからボルダリング是非やってみて中学生参加するかな、小学生参加するかな、体操教室やったらできるかなってそういう本当うちの課長が言ったように試行なんで、それがイコール中学校のクラブ活動から移るっていうあれじゃありませんので、そういう段階でやっていくというんで、とりあえず組織的に指導者がやってくれるかどうかっていうのでその三つはやってもらえんということで、そうしてできれば参加者が沢山いれば、そういうのを今後の小鹿野町の中学生の活動の地域展開の一つの選択肢となるというふうなことで。あと柔道だとかそういうのはもちろん、現在ある組織にお願いするしかないです。それはまさしく移行して、今度は展開やっていくというふうに思っているということで今やってますのでそういう段階です。

それからもう一点、皆さんにご理解いただきたいのは、全部国からぼんと降りてくるんですよ。国から降りてくるんですよ。だから自治体の実態なんていうのは全然把握してないんで、今回もですね、結局本当はもう9年ごろは、移行するわけだったんですよ。当初の提案では。結局8年から10年度が実行期間というので改革するとどういうことができるかっていうのでやって、それから11年から13年度なんですよ。13年度に休日のクラブ活動はやらないで、中学校のクラブ活動はやらないで、地域でやってる人の立ち上げたものでやってみましょうって言うんですよ。これ全部国から全部ばたーんと落ちてきた。だから県の方も泡くちゃって、どうしたらいいか、そういう段階です。小さな町は大変なわけです。というのは大きなところは、近くにスポーツクラブがありますジムとか、スポーツセンターがありますので、そういうところと契約して、やっていくっていうふうな。そうすると、陸上ですと、そのクラブを持ってるグラウンドに行けばいいわけですよ。そうするとだからそれは費用がかかるわけですよ。そういうのは保護者負担になるっていうのですよ。だからそういうのもあって、そういうところでやってるのは今、国から指定を受けてますから補助金が出てますからそれで今やってるんですけど、それが切れたらどうすんだっていうことが大きな課題になるわけですけど。小さなうちみたいな町、実際、今3町は大変なんですよ。

守屋委員さんが言ったように、現在ある卓球なら卓球でいいのは皆野で、良い指導者が会社でクラブやってますよね。そこに乗っかってできるんじゃないかなとか。そんなふうな感じですね。秩父市も今やってる色々な学校のじゃなくて卓球クラブやってるところありますよね。卓球にしても剣道にしてもそういうところに中学生が行くっていうような方法を、まず初期はそうかなっていうような、そんな段階ですので、小鹿野町はだから今広めるってのはさっき言った推進協議会を定期的に持ってますので、それから、話が行くかと思しますので、よろしくお願いします。

守屋委員

よくわかりました。ただ、スポーツ協会の方もそういう報告はないのですよ。どういうふうになってるかって報告を荒船会長からも、この前7月9日会議あったのですが理事が集められて。そういう報告もないし、それから、当然保護者もまだわかっていない人が多くて、一番大事なことはやっぱりこれはどこが責任を取るかっていうか、どこが責任を持って子供たちのそのスポーツに関わってやっていくかっていうところが、結局地域に移行っていうか、展開って教育長さんが言ってるように国からいきなりポンて出てきたもんだから、これが本当に責任を取りきれないで、今まで全部学校がそれこそ保険も含めてや

ってくれたからうまくいったものをそれでいろいろあって80年、中学校ができて80年ですよ。戦後ですから。なるところなんだけど本当にいろいろ紆余曲折しながらいい形の部活動が出来上がりつつのところで、今回みたいな、本当に働き方改革から始まって、こういうふうなもんがポーンて民間に出されるようなことになっちゃってるから今までの流れが本当にガラッと変わっちゃうようなことがやっぱり起こりつつあるわけで、多分すごく難しいことになってくるんだと思うんだけど、それがだから地域に移行したって誰が責任取るかって、その子供の命に関わることもあるわけですから、そういうところから含めて多分大きな問題になっていくんだろうなと思うんですが。

あとだから指導ですよ。誰が指導するかっていうことで、結局指導も本当に確保できない。学校でも確保できない状況がこういうふうになってるのかなと思うんだけどおそらくお金払ってやるって言ったって多分やってくれる人はそこまで多分いないんじゃないかなと思うし、それがだから本当に地方に行けば行くだけ大変な問題になりつつあるのに関わらず、簡単に国がそういうふうを決めちゃおうとしてるっていうのが多分問題になっちゃうんで思うんですけど。

いずれにしても、本当に魅力ある部活っていうかね運動スポーツにしていかなきゃいけないから、そういう組織を小単位で作る。本当に小鹿野町の学力向上に関してはすごいプログラムっていうかができて、他のところに、それこそ何か見本になるような学力向上の策を練ってもらってるんだけど、これをだから本当に魅力あるものにして保護者が納得するようなものにしていくとなると、どこにしたらいいのかなって、みんなで本当に力を合わせて考えないと、多分子どもは置き去りになっちゃって、変な方向へ行っちゃう子がいっぱい出てきちゃって、学校にはそれが見えない生徒指導が起こっても見えないような状況になってしまわなけりゃいいなと思うんですけどね。そんなところをちょっと心配しながらいるんですが、まだ小鹿野町の私が関わってる部分でいくと、そのボルテージは上がっていない。だから、教育委員会で一生懸命やっても、それがまだスポーツ協会あたりにも波及してないわけですから危機感をまだ持っていないのかな。本当に一部の人しか多分持っていない。関わってる人しか多分感じてない問題かなんて思ってるんですけどね。そんなところを思っております。

町 長

トップダウンで来ちゃっているからね。うまく地域でそういった調整ができていない部分がありますよね。

守屋委員

教育長さんも本当に部活動も何か意義とか、その効果ってい

うのはもう重々わかった上で、いろいろ考えていただいてるから私も言うのが非常に苦しいんですけど、ただ本当になかなか今のままだとどうなっていったらいいのかなと、なんか結局人任せになって、動いていかなければいいなって、誰が責任取るのだろうって。

八宮委員

一点確認いいですか。地域でこれやっていくので、国からはもう来年度から実走するっていうような流れの中で、ソフトボールが今回、学総大会で2チームしか出てなかった場合に、指導者が1ヶ所だと1チームになるとか、柔道も小鹿野単体でなく、秩父地域でお願いするような形になってるような。来年度のイメージはどんな形で。小鹿野だけで、例えば柔道だったら小鹿野柔道クラブが見るっていうんじゃなくて秩父地域全体で指導者をまとまってみるみたいな。その辺もこれから詰めていく感じなのですか。この1年を通して。

学校教育課長

地域クラブ活動としてのイメージとしましては、八宮委員さんがおっしゃった秩父地域でのっていう考えもございます。ですので例えば小鹿野で柔道クラブさんが今回の地域クラブ活動で、土日に中学生も見てもらえるかなっていうのも、小鹿野の子だけしかっていうことではなくて、秩父地域全体でも受け入れられるような、そういう体制作りというのを一市四町で相談して吸い上げていくっていうところがございます。

八宮委員

秩父地域で小鹿野中学の柔道部だけじゃなくていろんな中学校の柔道部と一緒に練習するようなイメージを持って、来年度から始まるような感覚でいいのですかね。

学校教育課長

来年度から始めるかどうかっていうのはなかなかちょっと厳しくてですね。

八宮委員

まだここ、前期から始めるみたいなこと書いてあるけど、実際まだそこまでは、まだ緩い感じなんですね。

学校教育課長

まだまだですね。

八宮委員

急だなって思って。これ読むと、もうちょっと乱暴ですよ。俺らも心配しますよ。

守屋委員

大会そのものが今は中体連って言うのが組織作って、その大会を運営して全国大会まで持ってっていくようにしてるけど、それが今度競技団体が中心になった、要するに大会を作って、例えばサッカーなんかだと、もうそういうのを表明しちゃって

るから、中体連そのものが多分なくなっちゃう。その後多分10年後ぐらいには、多分そういうことになっちゃうんですよ。ただ、高校には手出してないから。高校の高体連っていうのがあって学校が主体となって、インターハイ等は多分存続するんだと思うんだけど。結局は母体がなくなっちゃう可能性あります。だから、試合をやるにも、例えば学校間で一緒に中体連が認めてる複数校で一緒になってチーム作って出られるっていうか、あるわけだけど、多分そういうのがいずれなくなっちゃうんだと思う。あるいは、どこまで中体連が譲歩をして、例えば、サッカーみたいに上の団体がないから中体連が面倒見るとかするかもしれないし、ちょっとそこら辺もはっきりしてないと。そこら辺が折り合いがないまま、一方的に国がポンとやっちゃってるから、いろんなところで混乱が生じているのは確かです。

ただいずれにしても、ちょっと大きな問題なんで本当に保護者はすごいさっきのプールと同じように危機感を持っていかないと、体が高められない子供になっちゃう心配はあります。

教育長

一つ確認しておいてもらいたいのは、今話してる地域展開の8年度から10年度というのは休日だけですよね。月曜日から金曜日までは、まだ今の現状の部活動やっているのですよ。休日は今、学校職員がやってますよね。だからそれを地域でやるので、だからそのところだけは、まだ土日のやつだけに限ってなのですよ。

八宮委員

まだ前期の10年度までは各中学校毎で、大会に出るような形で。

教育長

ですから4を読んでいただくと、さっき言った費用の問題だとか、指導者のことを国はまだ検討します、要請しますという段階なのです。それなのに、ボーンって出してくるから8年度、10年度超えないという。だから自治体が追いついて行けないのももちろんなんです。だから県は大変ですよ。今、秩父は一市四町で一緒にやってますので。それでもなかなか各自治体で考え方が全部違いますから。

八宮委員

ちょうど今日の秩父の合同練習に、倅をこの後柔道に連れていくんですけど、どうなのかなっていうと、その休日っていうのだと腑に落ちます。平日は部活動やって、土日はそういう形をね、わかりました。ありがとうございます。

学校教育課長

ですので、さっき言ったように小鹿野独自のボルダリングっていうのも、試行でやってたら、そうすれば今度は小鹿野町の

ボルダリング何とかクラブとか作れば、地域展開として休日も駄目ですよってなった場合には、そういうところにもサッカーやってるんだけど、土曜日の部活だけはこれをやろうとかね。野球やっているのだけど、プログラミング興味があるってなったら、土曜日もしくは日曜日行ってやっていくってなる。受け口のそういう選択肢として。でも、もしかしたらそのまま土曜日もサッカーがやっていく。野球も組織できればそっち行くっていう。だからそういうふうな形ですね。ですから、曖昧なところがたくさんあるのですよ。

八宮委員

いろいろ確認しないと、字面だけだとわからないですよ。

教育長

守屋委員さんが言ったように、各団体がダーッと自分のところのあれに流せないのは、だからそういう本当に曖昧な部分がたくさんあってやっていくので、流せないかと思いますが。ただ実態としては動いていかないと、ぱってなっちゃったときに小鹿野町、まだ何も準備してませんってことは困りますので、担当の方でそういうことをやっていますので。あくまでも休日だけです。

中山委員

保護者の方がそこを理解していないと思うんですよ。学校説明会とかでも、何人以下になってしまうと、今度その部活なくなりますよなんていう話は学校の説明会で、そこだけ保護者は聞いているので、ちゃんとしたことを保護者に連絡をしていたいただければと思います。

まだ10年度ぐらいまではこういう感じで国から言われているので、平日の部活はいままで通りですっていうのは、言ってもらわないと、もう来年もう何部が無くなっちゃうのかなとかっていう話はちよくちよく皆さん、保護者が話してるっていうことは、生徒というか児童小学生なんかも、もうバレーがなくなっちゃうから、卓球に行かないとか何とか言っている子とかよく聞くのですよ。だから、かなりの誤解を招いてる。

八宮委員

理解が多分追いつかないんじゃないかな。この段階で保護者に説明しても。多分競技ごとにそのやり方が違って来るから、この競技はこう、この競技はこうっていうのが決まるまでは、変に言っちゃうと、こうに考えちゃう親御さんは。

中山委員

今部活がなくなるっていうのはないのですよっていうような。

教育長

だから中山委員さんが言っているのは部活なのです。これは地域展開のクラブ活動だから。今言ってるのはそのままい

いのですよ。学校が説明した通り、何人以下になったら無くなる。合同になっちゃって。これとは全然違う話なんですよ。これ全然違うんですよ。

中山委員 では部活はなくなっちゃう感じ。

教育長 月曜日から金曜日までは今の部活です。それは学校の説明の通りです。中山委員さんが今言った何部はどうかの、それは学校が説明していただいた通りです。

八宮委員 じゃあそこで少なくなった場合、他の中学校と合同で出るっていうのは部活っていうくくりじゃなく、地域の活動として。

教育長 だからそれは今までの部活です。月曜日から金曜日でやっている今の活動でやってるやつは、まだ何も変わっていないんですよ。

八宮委員 例えば9人いないとできないスポーツが8人になると部活がなくなっちゃうよっていう説明をしてるけど、こっちの学校とくっつけば出るってなった場合は、それはまた部活として出るのか、部活として存続するのか。

教育長 今も実際に合同でやってますよね。中学校やっていますよね。それで県大も認められて、合同チームでも。

八宮委員 そうするとチーム何人以下になってくると、部活がなくなっちゃうっていう話はおかしくなくなってこないですかね。他の中学校とくっついて出れるってなったときに。

教育長 それは中学校でちゃんと説明してると思うのですよ。

守屋委員 基本的には小鹿野中は小鹿野中の単独チームで出てるから今、多分合同でチーム作って。

中山委員 サッカーが合同で出たじゃないですか。

八宮委員 ソフト部も上里の中学生来てますよね。自分の知り合いの娘さんなんですけど、この中学校の子、みんな仲良くていいんだよねってすごく褒めてました。

教育長 今でもソフト部は足りてるでしょ。1年生がだいぶ入ったので。

中山委員 別っていう話をよくしておいてもらって。

教育長 多分だから、これがさっき言ったように曖昧だから、まだ
そういうふうなんで出せないんだと思います。

守屋委員 土日が結局は多分練習がなくなる。というのと、結局自分が
好きな、だから学校には無い、今試行してるものを含めて、自
分が所属してるところでないところに行って活動すること
もできるということですか。ただ、これは保護者の送り迎えとか、
それだけ指導者へのお金の払いとか、そういうのが伴いますよ
ってそういうことになると思います。

 こういうふうな形でまた保護者の負担が増えるとなると、子
育てがなかなかまた、大変なことになってくるし。もう本当良
いのかなと思いますよね。

町 長 この議題につきましてはこれでよろしいですか。それでは
(2) の議題につきましてはこれで終わりにいたします。

 次に(3)その他についてでございますけども、皆様どうぞ。

学校教育課長 すいません。時間が押してところで恐縮でございますが。
4月にですね、小学校の4校統合しましたので、統合後の様子
につきまして、ご報告だけさせていただきたいと思います。

 3点です。まず児童の様子でございます。全体的な様子とい
たしまして、年度当初、一部閉校小学校の子達で、固まってい
る様子が見られましたが、今はそうした垣根も越えまして交流
も見られるようになったということでございます。統合前の交
流活動等が功を奏したというふうに学校の方は見ております。
統合をして3ヶ月が経過したところでございますが新生小鹿
野小学校の生活にも慣れまして、全体的に元気に明るく学校生
活を送っているということでございます。それから長若、三田
川、両神地区の児童の様子でございます。スクールバスの登下
校、授業の生活のリズムにも慣れまして、元気に学校生活を送
っているということでございます。交友関係も旧小学校区を越
えまして、授業や休み時間を過ごしている様子が見られている
ということでございます。

 統合によりましてより良い効果が現れている点ございま
す。それまで不登校傾向でしたり、不登校であった児童が改善
が挙げられる児童が多く見受けられます。具体的には不登校傾
向で、教室に入れなかった児童が休まず登校して教室で授業を
受けている例がございます。

 また保健室登校であった児童も、教室で授業ができるようにな
ったというような例があります。

 2点目としまして教職員の様子です。大幅な人員の増加とい

うことであったわけですが、旧長若小、三田川小、両神小からも、北部の教員が中心だったというのがございまして、町の研修会あるいは昨年度までの児童の交流会等を通じまして、教職員の交流等も行われておりましたので、円滑に業務が行われているということでございます。年度当初に職員会議を大幅に持ちまして、学校経営方針を共通に理解し、チーム鹿小を合言葉に連携を図りながら業務を行っているということでございます。

3点目といたしましてスグールバスの運行状況です。全体的な様子となりますが、年度当初に多少の課題、主に欠席連絡等の取り方というようなことでございますが、そういったことも多少ございましたが現在では順調に運行されてるということでございます。また細かなところもあるということでございますので、それは夏休み期間中に、学校教育課と学校とバス事業者と打ち合わせを持ちたいと考えております。簡単ですが、以上です。

町 長 統合記念碑の話は。

学校教育課長 統合記念碑でございますが、小鹿野小を含めまして、4校の統合に伴う記念碑をプールの更衣室の建物の前に作ったところでございますが。この度、ぜひ倉尾小の名前を入れていただきたいというお話がございまして、記念碑を作る実行委員の方にお集まりいただきましてご検討いただきました。皆様に満場で異議なしということでお認めいただきましたので加筆する形で、統合記念碑に倉尾小の名前等を入れさせていただくことで今進めてるところでございます。以上です。

町 長 中学校がそうだったんだよね。だからそれに準じて、加筆したんですよ。他はありますか。

中山委員 防災無線の活用についてなんですけれど、小中学校が一校ずつになりまして運動会とかの、例えば中止になったお知らせとか、もしだったら防災無線でしていただけると、マチコミで小・中学校連絡が来るんですけれど、やっぱりおじいちゃん、おばあちゃんみんなが行きたいっていう人とかも大勢今来てくださっているんで、それで中止の場合、お知らせをしていただけるとすごくありがたいなっていうのと、たくさんイベントを、小鹿野町はしているんですけれど、イベントのお知らせというか、そういうのはできないのかなっていう。バイクのイベントとか、今日はやっぱりバイクが多いけれど、何かやってるんかいなんてよく聞かれ、わかんないですなんて。あのお祭りなんかも花火が鳴っててもよくわかんないんですよなんて

言うので。いいことをやっているのでお知らせしていただくというのは可能か。防災だから駄目ですよってなるのかどうなのかなんて、ちょっと聞くだけ聞きたかったんですけど。

町 長 防災無線の運用ちょっと総務課長がいるので、杓子定規な感じになっちゃうかもしれませんが。

総務課長 防災無線については、緊急性であるとか、また災害を優先的に流すってような原則がありまして、なかなかその中で、お悔みのお知らせを特別に流してるような状況で、その判断には迷うところがあるのですが。やっぱり住民の安全安心を周知するっていう点が最優先されるんじゃないかなということで考えております。

町 長 シティプロモーション事業ってやってて、その中に町内のイベントなんかのお知らせだとか、そういうふうに見られるサイトを作ろうっていうのでは動いてはいるんですよ。

中山委員 若い人だったらそういうホームページ見たり、インスタ見たり色々見て分かるのですが、年配の方からよく聞かれたりするのですよ。

守屋委員 逆に自分が小鹿野中にいた時、放送でマイクで言うじゃないですか。うるさいって苦情がやっぱり来るときがありました。特に深夜仕事してる人とか、それからあとはお年寄りで寝てる人にそれこそ花火の音がうるさいから花火はもうやめろとか、逆にそういう苦情が来たんで、よかれと思ったことが、かえって駄目なんだっていうのを感じたときもありました。だからもう本当に計画、その要綱にのっとってやらないと言い訳が多分立たなくなるっていうのは出てくると思います。

町 長 お悔やみをもうやめてくれっていう人も来ているのですよ。おかしいんじゃないかみたいな。いつも苦慮してるんですけど。

守屋委員 特にマイクが近くにあるうちは、あれ相当いい音で、夜中にかかるとピクッと飛び起きましたよね。

町 長 検討課題ということでよろしいですかね。

中山委員 回覧板で小・中学校の色んなことを全て回していたんですけど、そういうのが使えれば1回で中止なんかはできるので、校門に貼っておかなくっちゃかなとか、そういうでも来て見てわかるよりかいいかななんて思ったものですから、すみません。

町 長

これ流すことはできるんだよなかなか理論的にはできるんですよ。流すことができるんだけど検討課題でよろしいですかね。

他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは議事につきましてはこれで終了させていただきます。皆さんにはご協力いただきまして協議いただきましてありがとうございます。

以上で本日の総合教育会議を閉会とさせていただきます。

以上で総合教育会議を終了

閉会 午後0時25分

上記会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

令和7年8月12日

教育長

武藤 彰 男
